

NASUSHIOBARA Newsletter

12 / 5

December 2017 No.311



いつまでも
自分らしく



市シニアセンターでの福祉ネイルの一课マ。
いくつになってもおしゃれを楽しむ2人はいきいきと生きている。

いつまでも自分らしく



誰かの助けがなくて生活できなくなったとき、どこまで過ごしたいと思いますか。どこで最期のときを迎えたいですか。最期まで自分らしく、大切に生きるためには、今何ができるでしょうか。今回の特集で少し考えていきたいと思います。



在宅医療を支える医師

患者の自宅やグループホームなどの施設を訪問し、診療を行う在宅医療。住み慣れた環境での暮らしを続けながら、医療を受けたいと願う患者は多い。そんな希望を叶え、このまちの在宅医療を支えている訪問医・三森医師に話を聞いた。



三森医院
院長 三森 薫 氏

山形大学医学部卒業後、鶴岡協立病院などで内科、外科、小児科を研修。その後も複数の病院で勤務したのち、平成14年から三森医院にて地域密着の医療を行っている。

自宅で待つ患者を訪ねて

ある日の昼下がり、白衣姿に黒い往診バックを持ち、足早にグループホームへ向かう1人の医師の姿があった。自らの診療所の午前と午後の診察の合間を縫って、訪問診療を行う三森医師だ。この日は、グループホームに入所の際、通院が難しくなり訪問診療に切り替えた長峰さんのもとを訪れた。

長峰さんの部屋に入り、「お変わりないですか？元気でしたか？」と笑顔で声をかけると、長峰さんは安心したような表情を見せた。ベッドの横にやっていると、往診バックの中から聴診器を取り出し、お腹などの音を確認していく。その間も長峰さんとの会話を絶やさず、彼女を気遣う言葉や優しく語りかける様子がとても印象的だった。三森医師は月に1度、こうして彼女のもとを訪問する。

納得できる最期のために

三森医師は、この地域で医療を行っている15年になるが、訪問診療に割ける時間が少ないことが悩みだと話してくれた。「もっと訪問診療を行いたいのですが、日中は診療所の診察があり、夜は会議なども多く、思うようにいきません」と語る三森医師は、現在3人の訪問診療をしており、多い時で6人の患者を同時期に診ていたこともあるという。

20年近く在宅医療に携わってきた中で、複数の患者を看取ってきた。「在宅医療では患者さんが住み慣れた自宅で人生を全うし、満足して最期を迎えることができません。また、最期まで一番近くで世話をする家族も、弱っていく姿に向き合う時間があるからこそ、亡くなったことを受け入れやすく、納得して送り出せるようになります。」

「と在宅医療だからかなう最期の看取りを語ってくれた。訪問医の役割は患者に寄り添い本人の希望をかなえるとともに、その家族の支えとなること。最期までその人らしい暮らしを手助けしていくことが、医師としてのやりがいにも結び付いているそう。」

在宅支援充実のために

在宅医療は、万が一のことがあれば24時間体制で患者のもとに駆け付ける必要がある。しかし、日中は診療所での診察があるため、

すぐには行けないこともある。そんなとき、患者にとって頼りになるのが訪問看護師の存在だ。三森医師は看護師との連携を大切にしながら、患者の希望に沿った医療を実現している。

今後は新たな担い手の確保が課題。「これまで培ったノウハウを次世代へ引き継ぎ、若い人を育てながら、訪問診療で地域を支えていきたい」。そう語る三森医師は、今日も休憩時間の合間を縫って、黒い往診バックを片手に患者の待つ自宅へ向かっている。



1患者さんの待つ部屋へ足早に向かう 2往診バックには血圧計や喉の状態を診る器具なども 3聴診器を当てる間も患者さんに語りかける

大好きな貼り絵に没頭する長峰さん。三森医師がグループホームまで訪問してくれるおかげで、こうした趣味も続けられているという。



長峰フミ子さん (89歳)

2年前にグループホームに入所。仲間と歌や貼り絵を楽しみながら、元気に暮らしている。



近くに心強い医師がいたから、自宅で家族の時間を過ごせました

小高 美智子さん (72歳)



2年にわたり、ご主人を自宅で看病した小高さん。現在は、ご主人を看取った直後に生まれた愛犬とともに暮らす。自宅で看病を支えてくれたのが三森医師だった。「月2回の訪問診療以外にも、なにかあればすぐに三森先生が来てくれたので自宅でも安心して看病できた」と近くに信頼できる医師がいたことが心の支えになっていたという。

入院から在宅に切り替えたそうで、「本人も自宅に帰ることを望んでいた、住み慣れた家に戻り家族で過ごせてよかった。三森先生のほかにも、訪問看護師やヘルパーが毎日来てくれて私を支えてくれた」。そう当時を振り返り、「ひとりになっても寂しくないよう、犬たちを残してくれたのかな」とご主人を懐かしんでいた。

在宅医療の充実のために 今、求められていること

医療の発展とともに、病院だけでなく在宅での医療を望む声が聞かれるように。しかし、その希望に応えられる環境は必ずしも十分ではない。解決には“本人の準備”“地域で支え合う仕組み”“医療・介護のサポート体制の連携”の3つが鍵を握っている。



時代とともに変化する医療

終戦直後の日本の医療は、医師を自宅に呼ぶ往診が一般的でした。大家族世帯が多かった時代には、病気に当たり前でも家族が世話をするのが当たり前で、8割近い人が自宅で亡くなっていました。

その後、車の普及とともに病院へのアクセスがしやすくなったことに加え、医学の進歩により病院では最新の機材を導入。医療を受ける環境が整ったことから、具合が悪くなったら病院へ行くのが主流になっていきます。昭和51年には病院での死亡数が自宅での死亡数を上回り、病院で亡くなるのが当たり前前の社会となっていたのです。

在宅医療に注目が集まる

一方で、病院で最期を迎えるのではなく、住み慣れた自宅での療養や最期を望む患者の声が増えるように。平成4年には医療法が改正。それによって、在宅医療が入院、外来に次ぐ第3の医療として位置づけられ、在宅医療の普及が進められてきました。

65歳以上が総人口に占める割合の高齢化率も年々上昇し、平成37年には本市も30%に迫る勢い。その中で、自分らしい最期を迎えるための支援や準備を進める必要があります。



在宅医療連携コーディネーター
手塚 美恵子 氏

意思を尊重できる最期に

医療の発展に伴い「病院に行けば病気は治る」という、患者や家族の病院への期待値は上昇。病気になる前から誰もが病院に行く時代へと変化していきました。しかし、なかには元々の健康状態に戻らないまま治療が終わり、医療と介護の二つの支援を必要として退院する場合もあります。

全国でも6割の人は「医療や介護が必要な状態であっても、住み慣れた自宅で最期まで暮らしたい」と望んでいます。自宅での最期を望まないと思えた人に理由を聞くと「家族に負担を

かけたくないから」という意見が最多となっています。本音は最期を自宅で過ごしたいという人が大半なのです。病院は病気の治療をするところ。治療が済んだ後の療養の場所は、自宅や療養型の医療施設・介護施設など、自分で選択することができず、住み慣れた場所で、社会生活をしながらの療養は、期待以上の回復の可能性もあります。

地域で支える仕組み作り

高齢化率の上昇とともに、今後ますます一人世帯や老々介護の増加が予想されています。最期まで住み慣れた地域で暮らすために、「地域力」を高めることも重要です。市内には既に見守り体制を整え、心身の健康を維持するために「いきいき百

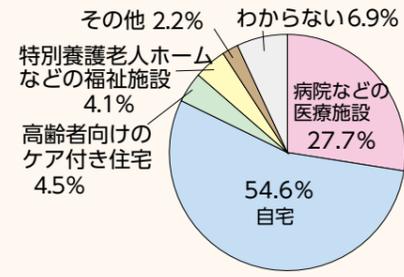
歳体操」や「生きがいサロン」など、高齢者がつながる機会を積極的に作り、運営している地域があります。地域内での交流が盛になれば、互いが程よい距離感で見守り、支え合うことも期待できます。こういった仕組みづくりを行う政や社会福祉協議会などがサポートしながら、「地域に適した支え合い」を目指していければよいと思います。

医療と介護の連携を

自宅での療養を選択した人への質の高い医療・介護を提供するには、医師や看護師をはじめとする医療分野と、ケアマネージャーやホームヘルパーなどの介護分野の連携が不可欠です。そのため、市では月に一度、両分野の関係者が一堂に集い、会議を開催しています。地域で活躍する多くの専門職が、それぞれの立場で日頃の悩みや業務内容を共有し、互いの事情を理解、尊重し合える関係をすでに構築しつつあります。互いに顔の見える関係が日々の業務に活かされて、より質の高いサービスを提供することにつながっていると思います。

最期を迎えたい場所

「高齢者の健康に関する意識調査」(内閣府 平成24年調査)



それぞれが望む最期を支えるために

在宅医療を望む人たちの希望を叶えるために何が必要となるか。在宅医療連携コーディネーターの手塚氏と、那須郡市医師会長の小沼氏に話を聞いた。

まずはかかりつけ医を持ち、気軽に相談できる関係づくりを



那須郡市医師会
会長 小沼 一郎 氏

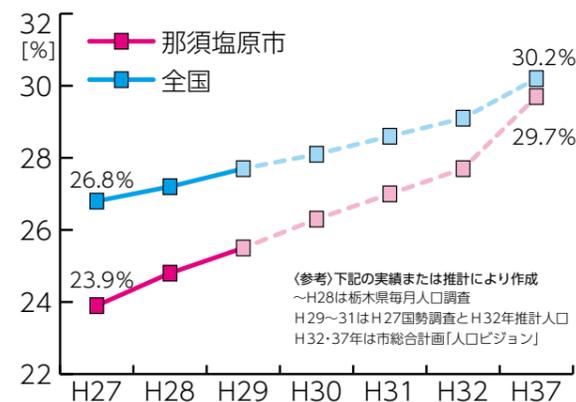
在宅医療を希望する場合、元気なうちから、かかりつけ医を持つことが大切です。かかりつけ医が自分や家族の身体の状態を一番よく分かっているという安心感があるからこそ、気がかりなことがあれば気軽に相談できます。かかりつけ医は、専門以外の身体の不調でも患者さんの疾患歴などを把握しているため、適切な専門医を紹介できます。

また、あらかじめ家族や身近な人に最期の過ごし方の希望を伝え、話し合っておく

ことも重要です。医師や看護師が患者さんのお宅を訪問して治療できるようになったとはいえ、在宅医療を実現するためには、家族や身近な人の力は不可欠です。だからこそ、医療や介護が必要になる前から周囲とのコミュニケーションを積極的に取っておくとよいでしょう。

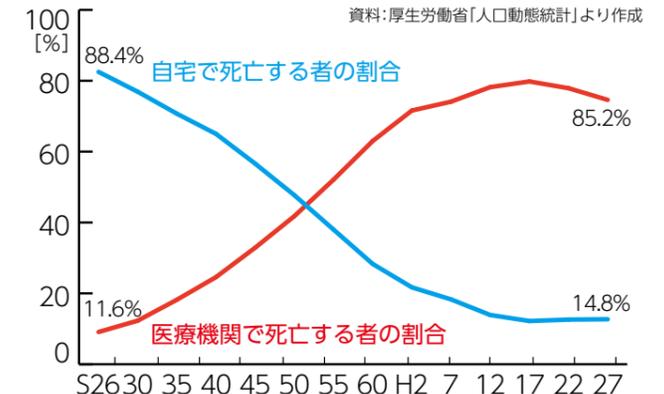
自宅への往診も、外来で長年培ってきた患者さんと医師の信頼関係があってこそできるもの。まずは、自分の健康管理を安心して任せられる医師を見つけましょう。

本市の高齢化率の推移と将来推計



医療機関における死亡割合の年次推移

資料：厚生労働省「人口動態統計」より作成

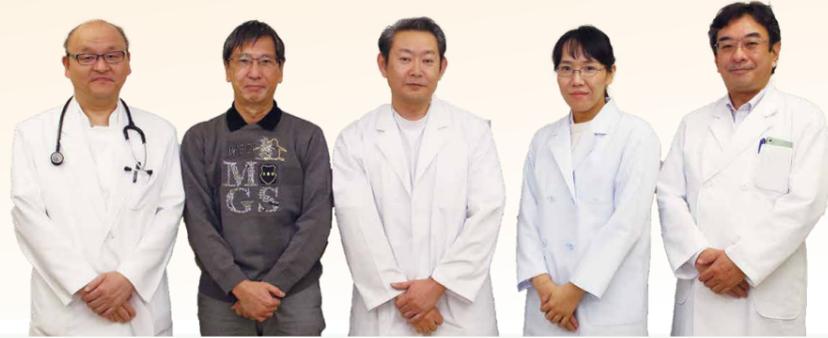


薬剤師



患者さんの自宅に薬を配達し、薬の飲み方の説明を行います。また、患者さんが飲み忘れて家に残った薬も無駄にならないよう、薬の出し方を調整しています。

医師



高齢者や病気などで通院が難しくなった人の自宅を訪問して、身体の状態を確認したり、必要に応じて治療をしたりしています。病院での生活は制限も多いですが、自宅では最期までその人らしい暮らしを続けることもできます。訪問医として、患者さんと家族の気持ちに寄り添い、医療を提供しています。

基幹病院



心臓病や脳卒中、骨折などの患者さんに対し、治療や手術をするとともに、その後の麻痺や体の衰弱を改善するためのリハビリを行います。日常生活を送る上での生活全般の機能を向上する病院で

のリハビリが、介護の負担を減らすことにつながり、患者さんもその家族も在宅医療を選びやすくなります。基幹病院では、退院後も在宅医療を受ける患者さんへの継続的な支援を行っています。

多職種連携会議

その名の通り参加している専門職は実にさまざま。ここでは、それぞれの職種や組織の役割を紹介する。

在宅医療を行う医師に対しての職種の人たちがインタビューして、互いに理解を深めているグループもあれば、現場の声を聞き取って多職種の連携を図るために、ヘルパー事業所へアンケートを行う準備を進めていたグループもあった。

この会議に参加しているメンバーには「目の前の患者さんを、そして最終的にはこの地域全体を良くしたい」という共通の目標がある。だからこそ、それぞれの立場は異なっても、互いの専門性を尊重しながら議論ができる。これからも、このまちの医療と介護を支える専門家たちの取り組みは続いていく。

幅広い専門職が集う場

仕事を終えたメンバーが開始時間前から集まり、自然に輪が作られる。最近こんなことがあったという世間話からそれぞれの業務の専門的な悩みにいたるまで会話は弾む。会議が始まると、さまざまな職種が入り交じり「多職種の情報交換」、「市民への啓発」、「在宅医療の人材育成」、「終末期ケアのスキルアップ」の4つのグループに分かれて、議論が交わされた。

連携でまちを支える

昨年度から始まったこの会議。各職種がそれぞれの業務を紹介して互いの仕事を知る機会を持つたり、職種ごとの研修会を開いて自分たちの仕事のスキルを高めたりと活動内容は多岐に渡る。また、地域の人に在宅医療を知ってもらうための企画も考えており、外部への発信にも力を注いでいる。



市民啓発に取り組むグループでは、2月に行われる講演会に向け、どうしても多くの市民が来てくれるかメンバーで意見を出し合っていた。

医療と介護の 連携に向けて

～多職種連携会議に密着～

高齢化に伴い、医療と介護の両方の支援が必要な人は、今後増加の一途をたどるとされる。そのような中、患者さんへのサービスを向上させるために、月に一度、在宅医療に携わる医療・福祉関係者が集い、議論が交わされている。その会議の様子や議論の内容をここで紹介したい。

歯科医師



通院が困難な患者さんの自宅に訪問して、歯の治療などを行います。患者さんの歯を良い状態に保ち、楽しく食事をしてもらえるよう努めています。まずは、かかりつけの歯科医に相談を。

地域包括支援センター・居宅介護支援事業所



地域包括支援センターと居宅介護支援事業所は、相談にのることで在宅での生活や介護予防をサポートしています。介護や医療、福祉など、必要な人に必要な支援と情報を提供します。また、地域の人たちの悩みや相談を受け、関係機関との橋渡しを行い、連携して課題を解決していきます。

社会福祉協議会 介護福祉士 社会福祉士



自宅に訪問して食事を作るなど家事をお手伝いします(介護福祉士(ヘルパー))。介護が必要な人の相談にのったり、在宅で最期まで過ごしたい人が、住み慣れた家で安心して暮らせるような地域づくりを行っています(社会福祉協議会・社会福祉士)。

訪問看護師



患者さんの自宅を訪問し継続的な看護を行います。医師と相談しながら、健康状態のチェックやきずの手当てをしたり、患者さんや家族から療養の相談を受けた際には、適切なアドバイスをしています。

地域で考えよう
終活セミナー 開催レポート



NPO 法人ひなた理事長の眞船一夫氏による講演会。実母の最期を看取った経験をまじえて終活の大切さを語る

10月31日、東那須野地区の住民を対象に「終活」セミナーが開催された。これは、地域のひととひとを結ぶための集いとして、東那須野地区「お互いさま」があふれる会が企画したもの。参加者は定員50人を上回り、関心の高さがうかがえた。

参加者に感想を聞きました



早坂 孝行さん 照世さん
終活の印象が変わりました
ここ数年、悲壮感を抱きながら終活を少しずつ進めてきました。でも、今日のお話を聞き、自分の人生を整理していけばいいんだと気持ちがほぐれました。



三本木 忠二さん
書くことの大切さを実感
これまで終活について深く考えたことはありませんでした。エンディングノートを書くなど、言葉にして記録に残しておくことが大切なんですね。

エンディングノートって？

人生を振り返り、自分の思いや希望を家族や大切な人へ書き残すものです。形式にとらわれなくて良いので、まずはノートやメモ帳に書いてみましょう。

- 寝たきりになった時の対応
- 自宅で家族に頼みたい
 - 自宅で専門ヘルパーに依頼し家族と過ごしたい
 - 病院や介護施設に入院したい
希望施設名・場所 ()
 - 状況に応じて家族・親族に判断を任せる

延命治療について

- 最期の時まで可能な限り延命治療を続けてほしい。
- 苦痛が伴う際の緩和治療は希望するが、延命治療は不要。
- 延命治療については家族の判断にゆだねる

財産管理

- 家族に任せる (氏名 続柄)
- 既に特定の人に依頼している
(氏名 続柄)
委任契約 あり なし 後見契約 あり なし
- 特定の人・専門家などに依頼したいが、まだ頼んでいない (氏名 続柄)
- 全く考えていない

病院医療



メリット

- 多くの医療スタッフが近くにいる
- 高度な医療が受けられる



デメリット

- 面会時間が限られるなど生活が制限される
- 医療費の負担が大きい

在宅医療



メリット

- 住み慣れた家や使い慣れた生活用品がある
- 家族も自由に入りができ、本人にも制限が少ない



デメリット

- 家族や周囲の負担が大きくなりやすい
- 高度な医療は受けにくい

人生の最期を
どう過ごしたいですか？

最期の過ごし方の選択

病气やけがで誰かの力を借りないと生活ができなくなったとき、あなたはどこで過ごしたいですか？

住み慣れた家で家族と一緒に普段どおりの生活をできるだけ長く続けたい。それとも、いつも近くに専門スタッフがいて病院で安心して過ごしたい。そのどちらを選ぶかは、人それぞれ異なるでしょう。また、最期まで自宅で過ごしたいと思っても、家族に迷惑をかけたくないという理由から、病院を選ぶ場合も考えられます。

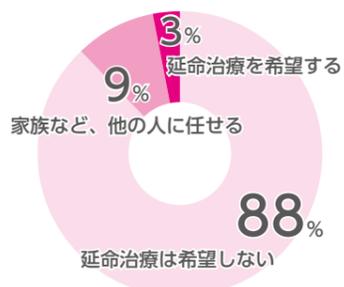
意思を伝える大切さ

自分で意思表示ができなくなってしまう場合、家族や周りの人たちはどうすればよいでしょうか。平成24年に55歳以上の人を対象に行われた内閣府の調査で、「延命のための医療行為の希望の有無」を聞いたところ、「延命治療は行わず、自然にまかせてほしい」

誰もいつか迎える人生最期のとき。必ずやってくるその日をどのように迎えたいのか考え、準備を始めるのに早過ぎるということはありません。

延命のための医療行為の希望の有無

「高齢者の健康に関する意識調査」(内閣府 平成24年調査)



と答えた人が9割という結果に、多くの人が延命治療を望んでいないことが明らかになりました。しかし、本人の意思が確認できない場合、家族はできるだけ長く生きてほしいと願い、延命を希望することも考えられます。だからこそ、元気なうちから自分の最期について家族や周囲の人と話し合い、自分の意思を伝えておくことが大切なのです。

エンディングノートを活用

最期まで自分らしく生きるために、元気なうちから人生を振り返り、締めくくる準備をする「終活」。

▶問い合わせ 那須郡市医師会 ☎ 0287(23)8647

終活を考える第一歩！講演会に出かけてみませんか

落語に学ぶ在宅医療

笑い与健康に注目して編み出された「お笑い落語健康体操」。みんなで笑ってストレスを解消しましょう。

- ▶とき 12月9日(出) 午後1時30分～(午後1時開場)
- ▶ところ 大田原市総合文化会館 (大田原市本町1-3-3)
- ▶講師 三遊亭 白鳥氏 ▶参加費 無料

地域共生社会と終末期の暮らし方

富山県で高齢者も障害者も児童も集うデイケアハウスを開設する看護師2人を招きます。地域でどう生き、どう最期を迎えるのか、一緒に考えてみませんか。

- ▶とき 2月25日(日) 午前10時～午後12時15分
- ▶ところ 三島ホール(東三島6-337)
- ▶講師 惣万 佳代子氏、西村 和美氏 ▶参加費 無料

01

功績をたたえて 市表彰式



市の発展や市民福祉の向上などに功績のあった、91人1団体の表彰を10月29日に行いました。

〔受賞者一覧〕

○地方自治

伊藤豊美、大野恭男、櫻田貴久、鈴木伸彦、松田寛人、大場浩一、鈴木克弘、城下一郎、北貞夫、岡部美代子、川上純正、横山留里子

○社会福祉

渡邊穰、池沢光子、磯末子、磯飛節子、青木美代子、黒崎和子、沢登順子、鈴木汎、鈴木美佐子、高嶋誠一、高瀬千恵子、田代道男、室井光江、室井階子、渡邊千恵子

○保健・衛生・環境

渡邊敏郎、那須塩原市動植物調査研究会、石川定女

○産業

荻原正寿、阿久津喜美一、伊藤義明、白井時敬、相馬二三、長濱昭一

○消防・水防・防犯・交通安全

磯良平、遠藤貴之、大田原幸男、菊地純、小柳秀幸、澤和仁、相馬義樹、田村精市、中村憲孝、鍋嶋充一、人見秀樹、室井浩一、八木沢義之、稲葉修一、岡本和広、金子豊道、菊池一夫、相馬



雅弘、田代治、手塚剛平、永山恵史、松本貴典、印南勇一、大塚好一、大貫典隆、織田秀夫、菊池学、君島弘二郎、君島正剛、君島直久、君島正要、小林隆史、津久井篤史、東泉秀幸、藤田雅文、藤田満、八月朔日純一、細川克彦、大武憲司、丸渕孝文

○教育・文化・スポーツ

橋本俊久、鈴木俊幸、江連恵子

○ボランティア活動

渡邊博、荒井まさ子、大武三枝、尾山佳子、篠崎ツネ子、高橋和子、田村節子、茅野武久、松下ちづる、眞船宣子

○金品の寄附

江連宏行、君島一、室井晴廣

▼問い合わせ

○本秘書課

☎0287(62)7108

02

まちづくり大使が誕生しました



小説家 森 詠さん



スポーツ選手(三井住友海上) 渋井 陽子さん



スポーツ選手(凸版印刷) 眞田 卓さん



お笑い芸人(U字工事) 福田 薫さん

この度、私たち市民と一緒に頑張って市を盛り上げていく、まちづくり大使に、本市にゆかりのある7人が委嘱されました。



サッカー解説者・指導者 原 博実さん



俳優 川岡 大次郎さん



ラジオパーソナリティー 岡田 眞善さん

▼問い合わせ

○本シティプロモーション課

☎0287(62)7128

03

リオ・パラリンピック車いすテニス男子ダブルス第4位 眞田卓さん記念講演会

〈講演会〉

▼対象 市民 ▼定員 300人

▼申込方法 当日窓口で受け付け

〈車いすテニス体験〉

▼対象 市内の小・中学生

▼申込方法 在籍している学校を通して申し込み

〈共通事項〉

▼とき 12月16日(土) 午前9時30分

▼ところ にしなすの運動公園体育館

▼参加費 無料

▼その他 室内履きを必ず持参

▼問い合わせ

○本スポーツ振興課

☎0287(37)5439



本市のまちづくり大使である眞田卓選手(凸版印刷)による、講演会および小中学生対象の車いすテニス体験が行われます。

04 なすしおばら ファンクラブ募集



みんなで なすしおばらを モ〜りあげよう

ファンクラブとは、那須塩原市のことを大好きな人が集い、市内外に向けてまちの魅力を発信するチームです。入会料は無料。あなたの参加をお待ちしています。

▼問い合わせ

○本シティプロモーション課

☎0287(62)7128

チャイルド
トピックス

学校・保育園・幼稚園などのホットなニュースをお届け!



将来の夢に向かって
～社会体験活動 マイ・チャレンジ～

市役所広報担当



中学2年生が5日間、学校を離れて働くことを体験するマイ・チャレンジ。今回取材した右の3人は慣れない環境に戸惑いながらも、働くことの素晴らしさを実感しているようでした。(鎌田・相原)

日新中 遅澤 蘭さん

元気溢れる園児たちと、楽しそうに遊んでいる遅澤さん。「おまごことや追いかっこなど、一度に色々な遊びに誘われるのでとても大変。でも子供たちに声をかけてもらうのは嬉しい。」と笑顔で話してくれました。また、「保育士さんになるという夢を叶えるためにも、これから事務処理やトラブルの対応などに挑戦したい。」と、マイ・チャレンジの意気込みを語ってくれました。(鎌田)



村上スポーツ



日新中 船山 丈心さん
三島中 西谷 円さん

村上スポーツでガット張りに苦戦している二人。「店員さんの対応が良いからここに決めた」と西谷さんが言うとおりの、取材の時もとても丁寧な対応をしてきました。

船山さんは「バットを運ぶ時に落として傷つけてしまったら、売ることができないので、とても慎重に運ばなければいけない」と仕事の大変さを語っていました。(相原)

上の記事は、市役所広報担当としてマイ・チャレンジを行った鎌田さん・相原さんの2人が取材し書き上げました。



日新中 鎌田 百恵さん

社会人に囲まれて活動することが出来て、とても良い経験になりました。



日新中 相原 伸乃介さん

今回のマイチャレで、実際に社会で働くことの大変さと楽しさが分かりました。



土俵で、のこったのこった!
～青木小学校 相撲大会～

11月4日、青木小学校で全校児童が参加して相撲大会が開催されました。

40年以上の歴史を持つこの大会。子どもたちは学年ごとに東と西に分かれ、行司の掛け声とともに思いっきり相手に当たっていきました。応援に来た人たちからは熱い声援が土俵上に送られ、一日限りの青木場所は大いに盛り上がりました。

また、会場では青木周蔵感謝祭が同時に開催され、訪れた人たちは晩秋の休日を楽しんでいました。



赤くて大きいリンゴはどこだ?
～わかば保育園 りんご狩り～

11月1日鴨内の大田原りんご園で、わかば保育園の年少から年長までの子どもたち72人がりんご狩りを行いました。ルールは1人3個までなので、なるべく赤い、美味しそうなりんごを探します。

少し高い位置になっている美味しそうなりんごに、つま先立ちで一瞬懸命手を伸ばす子どもたち。年中の小筆 一颯くんは、「美味しそうでしょ。お風呂のあとに、ママとパパと食べるんだ」と満面の笑みで教えてくれました。



NPO法人 すくすく子育てやぎハウス



NPO法人 キッズシェルター



NPO法人 子育てほっとねっと

市内で「子ども食堂」を運営する3施設

この度、市長が市内の「子ども食堂」3か所を訪れ、市民の皆さんから寄附してもらった「子育て応援米」を届けました。現在、市内では市長が今回訪れた3か所をはじめ、民間事業者による、「子ども食堂」が各所で運営されています。「子ども食堂」では、さまざまな理由で家族と食事ができない子や、支援を必要とする家庭の心の拠り所として、楽しい食事や安心できる居場所を提供しています。食事は、育ち盛りの子どもたちにとって、「体の栄養」として必要なことはもちろん、「心の栄養」としても必要なものです。市では、今後も、皆さんから寄附いただいたお米を「子ども食堂」に届けて、地域ぐるみでの子育てを応援していきます。

「子育て応援米とは」
市では、1歳6カ月になる子どもがいる家庭に、子育て応援として米(20kg)を贈る制度を実施しています。
また、この制度では自身が農業を営み、米を作っているなどの理由で、応援米を受け取らずに「子ども食堂」に寄附することもできます。

問い合わせ
農務畜産課 ☎0287(62)7147



07

塩原もの語り館・館内施設運営事業者を募集します

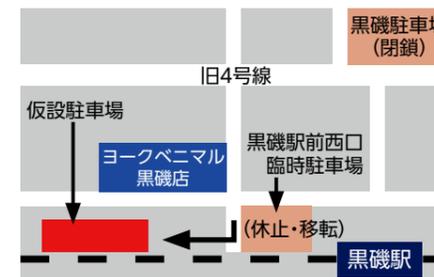
対象施設・期間
施設 館内レストラン、直売所および売店 (同一利用者が行うものとする)
期間 平成30年4月1日～平成33年3月31日(3年間)
申込方法
塩原産業観光建設課で12月5日(火)～20日(水)に配布する募集要項に掲げる書類を提出
申込期限 12月28日(木)
申し込み・問い合わせ
塩原産業観光建設課 ☎0287(32)2914

05

皆さんの好意に感謝
子ども食堂に子育て応援米を寄附

06

黒磯駅周辺の整備に伴い、
市営黒磯駐車場を閉鎖します



黒磯駅前西口臨時駐車場(閉鎖)
旧4号線
仮設駐車場
ヨークベニマル黒磯店
黒磯駅前西口臨時駐車場
(休止・移転)
黒磯駅

黒磯駅前西口臨時駐車場を閉鎖するため、閉鎖後は黒磯駅前西口臨時駐車場をご利用ください。また、この臨時駐車場も平成30年2月中旬頃に休止し、仮設駐車場を新たに設置します。
閉鎖日時 1月4日(木) 午前0時
料金(市営黒磯駅前西口臨時駐車場)
最初の1時間は無料、その後1時間毎に50円(ただし24時間毎に400円を上限)
※24時間を超える場合はこれを繰り返し合算。
問い合わせ
本生活課 ☎0287(62)7127



1 キッズダンスで盛り上がる会場 2 ファンクラブの設立を宣言する市民の市村さん 3 大使に委嘱状が手渡される 4 子どもたち向けのアトラクションも

まちを盛り上げたい人 この指とまれ ～なすしおばらファンのつどい～

11月18日、黒磯文化会館で“なすしおばらファンのつどい”が開催され、なすしおばらファンクラブの設立と本市のまちづくり大使の委嘱式が行われました。

那須塩原を盛り上げたい人たちが集い、まちの魅力を見つけ、伝え、広げていくことで、まちを応援していく新しいコミュニティ“なすしおばらファンクラブ”。また、一緒にまちを盛り上げてくれる市にゆかりのある著名人“まちづくり大使”。来場者を巻き込んで行われたまちづくりフォーラムでは、まちの魅力を再確認させてくれました。



フォーラムでの意見交換のテーマは“わがまち自慢”。市長や大使、ファンクラブの会員など、それぞれが感じている本市の魅力について語った。



← 生懸命電気を作るサイエンスショー

読書の秋 芸術の秋 学びの秋 ～なすしおばら まなび博覧会～

木の葉の色づきが深まる学びの秋。宇都宮共和大学那須キャンパスで11月11・12日、本市の学びの祭典“なしお博”が開催されました。子どもたちや公民館の講座受講者などによる作品展示のほか、地球温暖化を楽しく学ぶサイエンスショー。昔の遊びの体験、ALTによるゲームなどさまざまな体験コーナーが設けられ、多くの家族連れで賑わいました。子どもたちは体験を通じて、教科書が教えてくれない貴重な学びを満喫しているようでした。



1 磁石でたくさん魚を釣ろう(なしおランド) 2 百人一首を初体験。読み手の声に意識を集中 3 市PRキャラクターみるひいに集まる子どもたち 4 けん玉やお手玉など昔のおもちゃが大集合 5 フェイスペインティングでお洒落をプラス(ALT English Festival)



火事や災害に備えて ～那須塩原市消防団 通常点検～

11月19日、くろいそ運動場で那須塩原市消防団通常点検が行われました。那須塩原市消防団は黒磯・西那須野・塩原の3消防団が統合して今年4月に発足したもので、今回は統合後、初めての点検となりました。

この日は雪が舞う非常に寒い日でしたが、参加した754人の団員たちは団長の指揮の下、きびきびとした動きで機械器具点検や分列行進(写真)などを行いました。



紅の葉と緑のお茶を楽しむ ～塩原温泉 大正浪漫街道～

塩原渓谷は毎年美しい紅葉が楽しめます。この渓谷に沿うように走る国道400号の旧道を、散策路として整備したのが大正浪漫街道。紅葉だけでなく、点在する塩原を訪れた文人たちの文学碑巡りも楽しめます。

紅葉がピークを迎えた11月上旬から中旬にかけて、この大正浪漫街道の一角で野点や琴の演奏が行われました。紅葉狩りに訪れた人たちは、優雅な秋のひと時を堪能していました。



スポーツの秋を全力で楽しむ ～第12回那須塩原ハーフマラソン～

少し汗ばむほど暖かい秋晴れとなった11月3日、くろいそ運動場を発着点に那須塩原ハーフマラソンが開催されました。ハーフ、5km、1kmの3種目合計で1,672人が参加。沿道の声援に後押しされながら、1,344人が見事完走を果たしました。ハーフの部では西那須野中学校出身の吉成祐人さん(24)が優勝し、表彰式では「気温が高く厳しい条件でしたが、地元の大会で優勝できて嬉しいです」と笑顔で喜びを語ってくれました。



上手くコースターを織れたよ ～博物館フェスタ～

穏やかな天候に恵まれた11月3日、那須野が原博物館で博物館フェスタが開催されました。

この催しは博物館を中心に活動している各団体が日ごろの活動や研究の成果を展示するほか、さまざまな体験ブースを設けて、訪れた人々を楽しませます。

この日、機織りに初めて挑戦した男の子は、助けを借りながら機織機を操り、見事にコースターを織りあげて満足そうな笑みを浮かべていました。



白球と世界への夢を 追いつける野球少年



「野球」。多くのファンを集めるプロ野球、夏の風物詩となつている高校野球、そして最近では本場アメリカのメジャーリーグでの日本人選手の活躍。野球は、日本でも身近で人気のあるスポーツの一つだろう。
多くの子どもたちが、クラブ活動や学童チームなどで白球を追いかける光景も、市内ではよく見られる。そんな中、今年8月にアメリカで開催された世界大会に日本代表チームの一員として参加した少年が市内にいる。依藤知憲君、彼もまた野球の魅力に取りつかれた一人。彼の野球に対する思いを語ってもらった。

「野球は、興味を持っていないくても観戦したり、プレーしたりして楽しめるところが僕は好きです」。少しはにかみながら野球の魅力について話してくれた依藤君。一見普通の野球少年だが、彼は世界の頂点に立った日本代表チームの一員だ。

依藤君が野球を始めたのは小学校3年生のとき。父や兄の影響で、自然と野球をするようになった。「小学生の時は、お父さんがチームの監督だったんです。普段は優しいのに、野球をしているときはとても厳しかったです」と当時を思い出しながら話してくれた。

現在、依藤君は大田原ボーイズに所属し、二塁手をしている。「実は、本当にやってみたくらいは、捕手なんです。肩には自信があるので鋭い送球をしたり、周りを見ながら指示を出して、みんなを支えてみたいんです」と今後の目標を話してくれた。

野球少年なら一度は憧れる甲子園。依藤君ももちろん甲子園出場を夢見ている。高校野球で使用されている硬式球に慣れるために、依藤君は現在のチームに入ったのだとか。計画を立てて確実に目標を達成しようとする彼の性格が伺える。また、練習でも一週間ごとに目標を立てて、それを達成できるように励んでいる。

そんな彼の努力が認められて、今年8月に米国ミズーリ州で行われた2017カル・リブケン12歳以下世界少年野球大会に日本代表チームの一員として出場。*24チームが世界一の座をかけて火花を散らす中、見事その頂点に立った。「日本代表になったこと自体夢のようでした。今まで経験したことがない人工芝の球場で試合をしたり、外国の選手はみんな伸び伸びと楽しそうにプレーしていて、そ

※今回の大会では、日本・韓国・オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・プエルトリコ・ドミニカ・メキシコの各国代表と、アメリカの16州の代表チーム、合わせて24チームが出場した。

一步一步確実に 夢に向かって歩み続ける



全国から集まった日本代表チームのメンバー。大切な仲間であり、ライバルだ



世界大会の優勝メダル。依藤君の大切な宝物

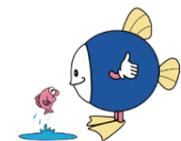


ひょうどう どものり
依藤 知憲 君 (13)

西那須野中学校 1年。
好きな教科は体育と数学。計算を得意とする文武両道の少年だ。

下水道ってどんなもの？

問い合わせ
 下水道課
 ☎0287(37)8479



下水道マスコットキャラクター「スイスイ」

処理場について

市には「黒磯水処理センター」と「塩原水処理センター」の2か所の処理場があります。

黒磯水処理センターは昭和55年、塩原水処理センターは昭和61年に稼働し始め、供用開始より31年から37年が経過しています。

経年により老朽化したことから、平成26年度から施設の長寿命化に取り組んでいます。

水処理センターの概要

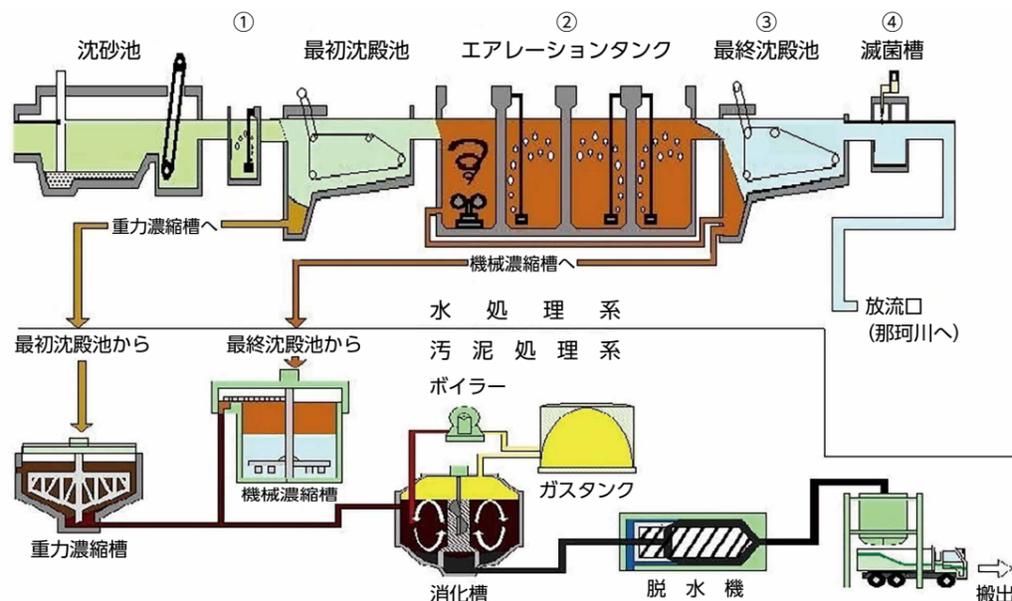
平成29年3月31日現在

| | 黒磯水処理センター | 塩原水処理センター |
|-----------|-------------------------|------------------------|
| 処理区域面積 | 1,626.0ha | 154.0ha |
| 処理能力(日最大) | 23,200m ³ /日 | 7,200m ³ /日 |
| 処理水量 | 376万m ³ /年 | 130万m ³ /年 |
| 平均処理水量 | 10,298m ³ /日 | 3,573m ³ /日 |
| 汚泥搬出量 | 1,426.2t/年 | 211.1t/年 |
| 平均汚泥搬出量 | 3.9t/日 | 0.6t/日 |

きれいな水に戻すには？

どのようにして汚水をきれいな水に戻しているのか、黒磯水処理センターを例に見てみましょう。

- ①沈砂池で大きなゴミを取り除きます。次の最初沈殿池では沈砂池で取り除けなかった細かい汚物を沈めます。
- ②次にエアレーションタンクで、空気を送ってかき混ぜて微生物を活性化させ、有機物を分解します。この時にできるのが、活性汚泥といえます。
- ③最終沈殿池で、活性汚泥をゆつくりと沈殿させ、上の方の澄んだ水(処理水)と汚泥に分けます。
- ④最終沈殿池で分けた処理水を減菌槽で消毒して、那珂川へ放流します。(塩原水処理センターは常川へ放流)



汚水処理には、いくらかかるの？

平成28年度に処理した汚水の量は、黒磯水処理センターで約376万m³、塩原水処理センターで約130万m³、県の施設の北那須浄化センターで約461万m³でした。

汚水処理の費用には、処理に使う薬品や電気料、施設を運転管理する費用の維持管理費と施設を建設した費用の資本費があります。

昨年度は、維持管理費で約7億8309万円、施設建設のために借りた元金と利子の返済である資本費が3億3274万円と、合計11億1583万円が汚水処理の費用として掛かりました。

このように汚水をきれいな水に戻すためには多くの費用が必要です。この費用は、下水道を使用している人に負担してもらおう下水道使用料だけでは賄うことができないため、多くの税金が使われています。



最初沈殿池



エアレーションタンク



最終沈殿池



中央制御室

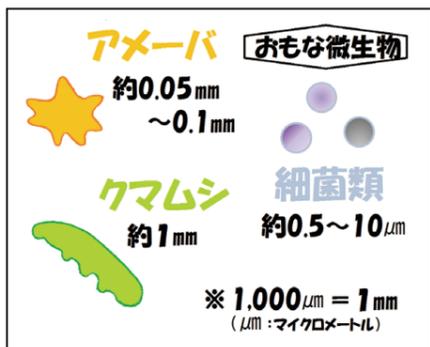
小さな縁の下の力持ち

「汚水の処理で活躍するのが「微生物」です。

微生物は、細菌類のような小さなものでは数マイクロメートルから、クマムシのように1ミリメートルくらいのものでいろいろな種類があります。

微生物がいる中に汚水を入れて空気を送り込むと、酸素を吸って活発になった微生物が、汚れを食べてくれます。汚れを食べた小さな微生物や、それを食べる大きな微生物がくっついてかたまりになると、重くなって下に沈んでいきます。

これが活性汚泥と呼ばれるものの正体です。こうして汚れが沈んでいくので、きれいな処理水になるという仕組みです。



水は大切な資源

地球上には約14億立方キロメートルの水があります。このうち97.5パーセントは海水で、2.5パーセントは淡水ですが、大部分は南極や北極の水です。

残りの淡水は0.8パーセントしかなく、そのほとんどは地中深くにあり、私たちが利用できる河川などの水は、全体の0.01パーセントだけなのです。

その河川などの水質汚濁の主な原因は、家庭からの排水ですが、魚が住める水質に戻すには、左の図のようにたくさんきれいな水

水は循環する

水は、地球上で形を変えて循環します。

下水道は、自分たちのためだけでなく、遠くに住む誰かのためにも休まず働いている施設です。私たちは、那珂川水域のきれいな水環境に恵まれています。きれいな水がとても貴重な資源とい

うことを忘れてはいけません。

那珂川水域の上流域で生活している私たちが、生活や経済活動で排出した汚水をきれいな水に戻すことは、下流域で生活している人たちの暮らしを守ることも大切です。



那珂川(畑下付近)

みるひいのマンホール 知っていますか？(回答編)

第2回で紹介したみるひいのマンホールですが、皆さん、見つけましたか？

設置場所は、**黒磯駅東口**でした。マンホールを観察するときは、まわりの安全をよく確認してくださいね。

交通ルールやマナーを守って見つけてね



スイスイの「これ、知ってる？」

微生物ってどのくらいいるの？

微生物って、目には見えないくらいとっても小さい生き物だよ。

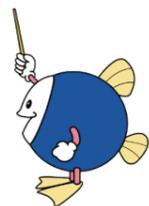
1センチのサイコロ型の汚泥の中にある微生物の数は、つぎのうちのどれかな？

- ①これくらいかな？ 10個
- ②もっといるよ 100個
- ③思い切って 10,000個

答え

正解は③の10,000個だよ。
 1センチのサイコロ型の汚泥の中には、およそ5,000個～20,000個の微生物がいて、汚れの原因物質を分解してくれているんだ。

たくさんの微生物が働いているんだね。



◆次回の「那須塩原市の下水道」は、下水道の利用についてお知らせします。

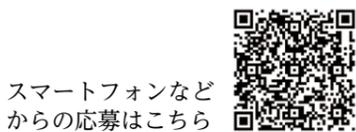


お便りBOX

皆さんからいただいたお便りを紹介します。
今後の広報誌づくりの参考にさせていただきます。

◆ 私たちが毎日あたり前のよう
に使っている下水道。たくさん
の人たちと工程があって使って
いられるんだと改めて思いまし
た。そして、みるひのマンホー
ル。私は知りませんでした。次
回どこにあるか楽しみです。大
工さん、左官職人さん、畳職人
さん、家づくりには絶対にかか
せない職人さんですね。また若

◆ 長い歴史の中で引き継がれて
きた技術が消失されつつあると
知り、その技術を次の時代に受
け継いでほしいと思いました。
広報なすしおばら、毎号見るの
が楽しみです。那須塩原は、と
ても住みやすい街です。
H・Gさん(並木町)60代女性



スマートフォンなど
からの応募はこちら

Q. あなたが好きなコーナーはどれですか？(複数可)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 表紙 | 2. 特集 |
| 3. 行政 info | 4. タウントピックス |
| 5. 子育て連絡帳 | 6. チャイルドトピックス |
| 7. 健康だより | 8. 図書館へ行こう！ |
| 9. お便りBOX | 10. なすしおばら珍百景 |
| 11. ちっちゃな自然 | 12. 編集後記 |
| 13. げんきびと | 14. ものづくり若人 |
| 15. 私のまちの近い遺産 | |

広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい
話題や記事などをお書きください。

◆ この時期は各種イベントが花
◆ 世界かんがい施設遺産、凄
いです。でも、ほとんどの方が知
らない。とても残念です。何か
イベントをやって欲しいな。
K・Sさん(鍋掛)50代男性

◆ 今回の特集、職人についてを
興味深く楽しんで読ませてもら
いました。特に茶道を習う長男
には畳がなじみ深いので、かみ
くだいて説明したところ、本人
も興味を示し、感心していまし
た。機械でなんでも作れる時代

◆ 野菜嫌いな子どもでも食べて
くれるようなレシピをのせてほ
しいです。特に、ホウレンソウ
などの青菜料理。よろしくお願
いします。かわいいクマのだい
きくんマドレーヌ、食べたいで
す。
M・Sさん(住吉町)30代女性

い職人さんの技の祭典、技能五
輪。次世代のために頑張ってく
ださい。珍百景、えーこんな色
のカエル見たことない。きれ
いな青色ですね。まるで映した
人の心みたいですね。
F・Fさん(埼玉)60代女性

盛りで、話題が豊富ですね。写
真が素晴らしく、記事などもコ
ンパクトにまとまっています。
広報が月2回ペースは大変だと
思いますが、頑張ってください。
Y・Tさん(下永田)60代男性

ですが、手作りにほかならない
部分も多く、未来へも残してい
きたいので、こういった広報な
どで少しでも興味をもつ人が増
えると良いです。
ひーとんさん(鍋掛)40代女性

その他にも、たくさんのお便りをいただきました。
ありがとうございました。

図書館 HP



図書館へ行こう！

年明け、テレビに飽きたら読書はいかがでしょう？
図書館は年内は12月30日まで、年明けは1月4日から開館しています。



NEW!



『どうぶつたちの給食時間』
著：並木 美砂子 旅するミシン店
動物園の動物たちはどのような給食
時間を送っているのでしょうか。
7種の動物をメインに、その動物た
ちのQ&Aとコラムが掲載されてい
ます。動物園の裏話もあります。
動物園をもっと楽しむことのできる本



『こどもキッチン、はじまります。』
著：石井 由紀子 太郎次郎社エディタス
子どもたちは「五感」を刺激する空間で
ある台所が大好き。たたく・つぶす・
まぜるといった初歩的な動作から一緒
にやってみませんか。簡単レシピや道
具選びも紹介されています。
“台所しごと”は、子どもの「やりたい!」からはじめてみましょう



『へんな浮世絵 歌川広景のお笑い江戸名所』
著：日野原 健司 平凡社
歌川広重、ではなく歌川広景が描いた
浮世絵は、広重が残したものとよく似
ていますが…よく見ると思わず笑って
しまうようなへんなものばかり。これ
もまた江戸!?
江戸の名所を楽しく、笑いながら満喫!



『だいぶつさまのうんどうかい』
ぶん：刈田 澄子 アリス館
仏様の運動会に大仏様が初めて参加し
ます。大きな体に加え、千年も座りっ
ぱなしで運動不足の大仏様に活躍の場
はやってくるのでしょうか？仏様たち
を身近に感じることでできる絵本です。
クスッと笑える仏様の解説つき



『ロゼットのたんけん』
著：おくやま ひさし 少年写真新聞社
地面に広がるように伸びる草。その様子
がバラの花に似ていることから「ロゼッ
ト」と呼ばれます。読むだけでも楽しい
ですが、実際にロゼット観察に出かけれ
ば、さらに楽しい気持ちになれるはず!
レッツ ロゼット探検!



『14歳からの天文学』
著：福江 純 日本評論社
「空はどうして青いのか」「夜空はど
うして暗いのか」といった身近な疑問
から、「宇宙人はどこに?」といっ
た宇宙論まで、天文学者である著者
が、分かりやすく解説します。
天文・宇宙の世界を少しのぞいてみませんか?

イベント情報

「この本よんでみて！コンテスト2017」 入賞作品を展示します

小・中学生の読書への関心を深め、家庭での読書を習慣
づけてもらうために図書館が実施している当コンテスト。
931点の応募作品の中から選ばれた作品を展示します。

- ▶とき・ところ
・1月 4日(木)～21日(日) 西那須野・黒磯・塩原図書館
・1月11日(木)～30日(火) 市役所本庁舎・西那須野庁舎・塩原庁舎
・1月24日(水)～30日(火) 那須野が原博物館エントランス
- ▶その他 展示期間・場所は変更になることがあります

▶問い合わせ 西那須野図書館 ☎(36)6001 黒磯図書館 ☎(63)9031 塩原図書館 ☎(48)7521

乳幼児と保護者のためのおはなし会 ボランティア養成講座「絵本よみあいあそび」

おかあさんと赤ちゃんが、いっしょに絵本を読みあって楽し
ながら成長をうながす「よみあいあそび」についての講座です。

- ▶講師 石川 由美子氏(宇都宮大学教育学部准教授)
- ▶とき 1月27日(土) 午前10時～正午
- ▶ところ 黒磯図書館 視聴覚室
- ▶対象 ・子育て中かこれから親になる人
・乳幼児や保護者へのおはなし会などでボランテ
アをしている人か、今後活動を希望している人
- ▶参加費 無料 ▶定員 40人 ▶申込開始日 12月15日(金)
- ▶申し込み・問い合わせ 黒磯図書館

※いただいたご意見は、内容を変えない範囲で添削させていただく場合があります。
※紙面の都合上、掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。

ちっちゃな自然
みつけた

NO. 152

自然を愛そう那須塩原

でっか〜い! でも、カワイイ!
〜アズマヒキガエル登場〜



今日の主役、私がアズマです。撮影日時:2017/10/13 撮影場所:箱の森

「蛙合戦」って知ってる?

蛙合戦とは、カエルたちが数多く一か所に集まって産卵することを言います。特にガマガエルと言われるヒキガエル類のカエル合戦は有名で、時には100匹以上の個体が集まります。ヒキガエル類の卵の特徴は、ひも状をした袋の中に入っていることです。アズマヒキガエルは、その中に1500から8000個の卵を産みます。



これが蛙合戦!

「何これ?」「これ、カエルですよネ?」「デケー!、スゲー!」でも、なんかカワイイ!と、いろいろな言葉が机の上の一つのケースの前で飛び交っていました。これは、10月に行われた西那須野産業文化祭での一コマです。この日、私は市環境管理課のブースのお手伝いとして、展示された生き物たちを解説していました。その中で、みんなの注目を集めていたケースの主が、県内在来種では一番大きなカエルのアズマヒキガエル君でした。この日のアズマ君は、体長10cmぐらいいましたが、成長すると最大16cmぐらいいで大きくなるカエルです。本州東部の海岸から高山まで広く生息し、時には人家の庭などにも姿を現すことがあります。市内では、4月から5月にかけて水辺周辺で出会うことが多いです。通称ガマガエルと言われて、みんなに親しまれているカエルですが、生息場所として必要な森や林が減少している近年、市はもちろん県内でもその数が減ってきています。ブースの前で一人の女の子が「カワイイ、カエルだね。お母さん。山の中で会ってみたいね」と言っていました。女の子の言葉を聞きながら、自然の大切さを再確認した私でした。いよいよ2017年も終わります。来年もまたアズマ君をはじめ、いろいろな生き物たちの元気な姿に出会えるように那須塩原市になりますように!

あきお

編集後記

今回の特集にあたりご協力いただいた皆様、この場をかりてお礼を申し上げます。お力添えをいただき、編集も大詰めとなっていたある日、突然親知らずがズキズキ…。痛みに耐えきれず歯医者さんに駆け込むと、すぐに抜歯することに。幸いひどくならず済みましたが、やっぱり信頼するかかりつけ医を持つことが大切だと身をもって実感しました。(生駒)

最近、少年野球で世界大会に出場した依藤君を取材しました。話を聞けば聞くほど、本当に野球が好きなんだなあと感じました。今後の彼の活躍が本当に楽しみです。ちなみに、私も小学生のとき軟式野球をやっていた時期がありました。小規模な学校だったので、3年生以上の男子は全員参加。正直苦手でしたが長打を打った時の嬉しさは今でも忘れません。(興野)

【お詫びと訂正】

11月20日号に掲載した次の記事の内容に変更が生じました。

○8ページ欄外 休館情報
健康長寿センター
温泉施設「長寿の湯」

【休館期間】
(変更前) 12月18日(月)~25日(月)
↓
(変更後) 12月11日(月)~18日(月)

なすしおばら
珍百景

あなたの「珍」を募集中

《応募方法》

方法① きらきらホット
なすしおばらに投稿
珍百景投稿用フォームに
必要事項を入力。



方法② シティプロモーション課に電話
☎0287(62)7109

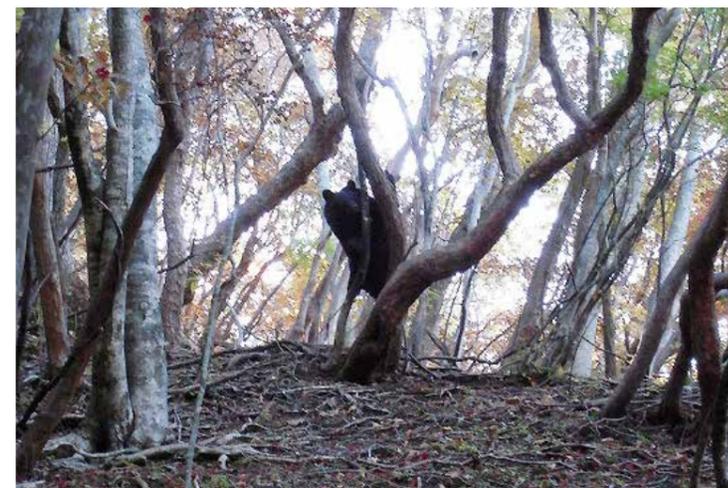
●必要事項

住所、氏名(ペンネーム)、電話番号、年齢、性別、珍百景写真、タイトル、撮影日、コメント(100字程度)

●注意点

※人権侵害、政治・宗教活動、意見広告や宣伝につながるものなど、掲載できない内容があります。
※内容を変えない範囲で添削する場合があります。
※被写体の人物または所有者などに許可を得てから応募してください。
※インターネットなどからの転載はご遠慮ください。
※応募いただいた写真は市の情報発信活動に使わせていただく場合があります。

カメラに向かって
ポーズをとる熊



投稿者 熊に嫌われている老人 さん(70代男性 東三島)
撮影場所 中塩原地内(撮影日 H26.10)

中塩原の山を歩いていたら、木の後ろから熊が顔だけ出してこちらを見ていました。その熊はカメラを向けるとさまざまなポーズをとってくれました。

3258501

お手数ですが
62円切手を
貼ってください

那須塩原市役所
シティプロモーション課
「広報なすしおばら係」行

ご住所 □□□□□□□□

那須塩原市

※掲載する場合は実名ではなく、イニシャルまたはペンネームで掲載します。

フリガナ ペンネーム
お名前 (希望者のみ)

☎電話

年齢 歳 性別 男・女

読者プレゼントに応募しない場合は☑をいれる ☐ 応募しない



行政情報アプリ「広報紙」が
「マチイロ」としてリニューアル!

マチを好きになるアプリ



自治体がもっと身近になる機能が盛りだくさん!

1 役立つ行政情報を見逃さない!

2 自分に合わせた情報が届く!

3 いろいろなマチの魅力をお届け!

ダウンロードはこちらから



※「広報紙」をご利用中の場合、アップデートによって新アプリに切り替わりますので、新たにダウンロードする必要はありません。 ※アプリの使用は無料ですが、通信費は各回線ごとのご負担となります。 ※広告が表示されますが、各自治体とは何ら関係ありません。

マチイロに関する問い合わせは株式会社ホープ(092-716-1404)まで



